「三大疾病に備える」

三大疾病とは①ガン②急性心筋梗塞③脳卒中を指し、この３つを死因とする割合は実に５５％と半分以上となっています。発症に至ってはまだ高い割合となることから、三大疾病を中心に医療保障を考える必要があります。最近のメディアでも著名人の方がお亡くなりになられたり、病気に罹ったりするとその病名等が伝えられますが、３大疾病がやはりかなりの割合になっていることがわかります。医療が発達して平均寿命がここまで延びてもこの高い割合で死因となるということは、やはり医療にも限界があるということの裏付けとなっておりますので、治せないのであれば備えるしか方法がありません。備えるということであればやはり保険の活用が有力です。費用対効果でいうと、実際受け取る保険金（死亡・入院・手術等）と支払う保険料を比較すると、支払う保険料の方が多く、損と考える方もいらっしゃいますが、一種のお守りとして、また日頃から保険料を前以って払っておくことで、いざという時に備えるという意味合いでお考え頂ければと思います。その次に誰に保障を付けるかということですが、優先順位としては、先ずご自身、次に家族、会社を経営されている場合は、従業員ということになるでしょう。自分の大切な方をカバーしつつ、そのような事態になった時は経済的に負担を減らす為に、また、所得税申告上の生命保険料控除枠の活用という面で備えが不十分な方はお考えください。

田原　智延